

社会政策学会 *Newsletter*

学会本部 大分大学経済学部 URL <http://www.soc.nii.ac.jp/sssp/>
Tel & Fax 097-554-7682 E-mail: ssspoita@cc.oita-u.ac.jp
編集・発行 阿部 誠(代表幹事) 菅沼 隆(広報委員長)
事務センター 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル (株)ワールドプランニング
Tel:03-3431-3715 Fax:03-3431-3325 E-mail: world@med.email.ne.jp

目次

1. 会員総会のお知らせ
2. 諸規定の改正(案)について
3. 第 118 回大会実行委員会より
4. 第 118 回大会プログラム
5. 第 119 回大会テーマ別分科会企画・自由論題報告の公募
6. 第 117 回大会開催校報告
7. 第 117 回大会会計報告
8. 社会政策関連学会協議会活動報告
9. 2008 年度専門部会・地方部会活動報告
10. 幹事会議事録
11. 承認された新入会員

1. 会員総会のお知らせ

2009 年 5 月 23 日(土)16 時 45 分より日本大学法学部本館 3 階大会議室にて会員総会を開催します。会員の方はご出席下さい。議題として予定しているものは、2008 年度活動報告、2008 年度決算報告、2009 年度活動方針、2009 年度予算、学会関連規定の改正、

社会政策学会賞選考委員会報告、名誉会員の推挙、各種委員会報告、その他です。

代表幹事 阿部誠

第 118 回大会実行委員長
日本大学法学部 矢野聡

2. 諸規定の改正(案)について

幹事会は、次のように規程の改正案を提案しますので、総会で審議をお願いいたします。

1. 旅費規程の改正

第 1 条【旅費の請求と支給】

・支給対象に広報委員会を加える。

「(6)広報委員で広報委員会に出席した者」を追加する。

2. 編集委員会規程の改正

2. 構成

・委員会の委員の数を 12 名以内に変更する。

(旧)「(4)委員会の構成は委員長を含め 7 名とする」

(新)「(4)委員会の構成は委員長を含め 12 名以内とする」

3. 第 118 回大会実行委員会よりお願い - プログラムの送付について

プログラムおよび参加費請求の振替用紙は、3 月 31 日に一斉に発送され、既に皆様のお手元に届いていることと存じます。一方、転居その他の理由で、返送された郵便物もあります。これらについては、当方で極力フォローしておりますが、万一プログラムが届いていない場合は、実行委員会事務局までご一報下さい。

4. 第 118 回大会プログラム

第 1 日目 : 5 月 23 日(土)

共通論題

福祉社会の変貌と労働組合

座長: 禹 宗蟠(埼玉大学経済学部)

首藤若菜(日本女子大学家政学部)

コーディネーター: 佐口和郎

(東京大学大学院経済学研究科)

9:30~12:30 午前の部【本館 3 階大講堂】

報告 1. 「企業別組合の基本的機能 グローバル化のもとでのその姿態」

富田義典(佐賀大学経済学部)

報告 2. 「非正規雇用問題と企業別組合の役割およびその展望」

橋元秀一(國學院大学学経済学部)

報告3.「社会保障制度改革と労働組合の役割 非正規労働者の増大とセーフティネット機能強化の課題」

小島 茂(日本労働組合総連合会総合政策局)

報告4.「労働組合運動の新展開 社会運動ユニオニズムの可能性 日米を比較して」

高須裕彦(一橋大学フェアレイバー研究教育センター)

昼休み(幹事会、各種委員会、専門部会)

14:00~16:30 午後の部 【本館3階大講堂】

総括討論

16:45~17:50 総会 【本館3階大講堂】

18:00~20:00 懇親会 【経済学部本館地下】

第2日目: 5月24日(日)

9:30~11:30 テーマ別分科会・自由論題

<テーマ別分科会・第1> 【10号館1041教室】

健康戦略の転換と包括ケア 保健・医療・福祉連携の形を探る 【春季企画委員会】

座長・コーディネーター:猪飼周平
(一橋大学大学院社会学研究科)

1. 健康転換と地域包括ケア 医療からのパースペクティブ
長谷川敏彦(日本医科大学)
2. 健康転換と地域包括ケア 高齢者福祉からのパースペクティブ
井上信宏(信州大学)
3. 健康転換と地域包括ケア 地域保健からのパースペクティブ
吉永智子(高知市)

<テーマ別分科会・第2> 【10号館1052教室】

派遣法の見直しと労働運動の課題 【非定型労働部会】

座長:笹島芳雄(明治学院大学経済学部)
コーディネーター:長井偉訓(愛媛大学法文学部)

1. 労働者派遣法見直しの課題
脇田 滋(龍谷大学法学部)
2. 派遣法の抜本的改正に向けての労働運動の課題
関根秀一郎(派遣ユニオン)

<テーマ別分科会・第3> 【10号館1051教室】

東アジア社会政策の国際比較研究
日本・中国・韓国の若手研究者の視点と提起
【国際交流委員会】

座長:宮本太郎(北海道大学)

コーディネーター:沈 潔(浦和大学)

1. 日本と中国における高齢者サービスに関する比較研究
于 洋(城西大学)
2. 日韓社会政策の比較研究の留意点と課題
鄭 在哲(早稲田大学)
3. 新しい福祉国家類型論に向けて
金 成垣(東京大学社会科学研究所)
4. 在日東アジア出身研究者の「東アジア研究」
株本千鶴(椋山女子学園大学)

<テーマ別分科会・第4> 【10号館1011教室講堂】

今日のジェンダー 経済格差の要因と解消を考える
(ジェンダー部会)

座長:森ます美(昭和女子大学人間社会学部)
コーディネーター:大槻奈巳(聖心女子大学)
コメンテーター:杉橋やよい(金沢大学経済学経営学系)

1. 男女賃金格差の実態とその解消への道筋
山口一男(シカゴ大学社会学科)
2. ジェンダー経済格差 生のメカニズムと克服の手がかり
川口 章(同志社大学政策学部)

<自由論題・第1 経営と労働> 【10号館1042教室】

座長:上原慎一(北海道大学大学院教育学研究科)

1. 外国人株主が日本企業の従業員数の変動に与える影響
福田 順(京都大学大学院経済学研究科院生)
2. 外国人研修・技能実習制度と中小企業の親和性
橋本由紀(東京大学大学院経済学研究科院生)
3. 「社会主義市場経済」下の商会のあり方について
温州の商会の事例を基に
陳 波(中央大学大学院経済学研究科院生
・中央大学経済研究所準研究員)

11:30~12:50 昼休み(幹事会、各種委員会、専門部会)

12:50~14:50 テーマ別分科会・自由論題

<テーマ別分科会・第5> 【10号館1052教室】

労働者供給事業の歩みと課題・展望()
(産業労働部会)

座長・コーディネーター:橋元秀一
(國學院大学学経済学部)

1. 労働者供給事業の歩みと課題・展望
伊藤彰信(労働者供給事業関連労働組合協議会)
2. 労働者供給事業の歩みと課題・展望へのコメント
龍井葉二(連合非正規労働センター)

<テーマ別分科会・第6> 【10号館1011講堂】

日本・台湾・香港における外国人ケア労働者
(国際交流委員会)

座長:武川正吾(東京大学)
コーディネーター:徐 明仿
(八戸工業大学感性デザイン学科)

1. 外国人介護労働者の受入れと権利擁護
山田健司(京都女子大学)
2. 台湾における外国人ケア労働者受入政策の動向と展望
陳 小紅(中華民国国立政治大学)
3. 香港における外国人家事労働者の課題と挑戦
関 鋭煊(香港城市大学)
陳 国康(香港城市大学)
4. 外国人ケア労働者の職業教育について
沈 潔(浦和大学)

<自由論題・第2 非正規雇用> 【10号館1041教室】

座長:小越洋之助(國學院大学経済学部)

1. 阪急電鉄の非正規化と再統合
永井隆雄(九州大学大学院院生)
2. 電機産業における臨時工からパートへの転換 労使
協調型組合形成による影響
中山 嘉(金沢大学大学院人間社会環境研究科院生)
3. 1990年代以降の日本と韓国における労働力の非正規化
と就業体制の変化の比較分析
横田伸子(山口大学大学院東アジア研究科)

<自由論題・第3 労働と生活> 【10号館1042教室】

座長:清山 玲(茨城大学人文学部)

1. ドイツ企業における時間政策と仕事と家庭の調整
田中洋子(筑波大学大学院人文社会科学研究科)
2. 北欧諸国における労働市場政策と労働法制
福島淑彦(早稲田大学大学院公共経営研究科)
3. 雇用激震下での労働、社会保障政策
岩田克彦(職業能力開発大学校)

<自由論題・第4 地域における社会政策>
【10号館 1051 教室】

座長:中澤秀一(静岡県立大学短期大学部社会福祉学科)

1. 中国の新型農村合作医療制度の展開について
王 文亮(金城学院大学現代文化学部福祉社会学科)
2. 障害児・者の地域生活支援に関する政策研究
江本純子(佛教大学社会福祉学研究科研究員)
3. 地方自治体のDV施策における市民参画型政治の展開
小柴久子(山口大学大学院東アジア研究科院生)

<自由論題・第5 家族と福祉> 【10号館1061教室】

座長:布川日佐史(静岡大学人文学部)

1. アメリカ社会保障の転換 社会保障法の改正から
向井洋子(筑波大学大学院人文社会科学研究科院生)
2. 21世紀イギリスの子どもサービス 子ども保護、家族
支援、保育サービスの統合
伊藤淑子(北海学園大学経済学部)

3. 母子政策を通じてみた韓国の家族支援政策とジェンダ
ー主流化
成 垠樹(東京大学大学院人文社会系研究科院生)

<自由論題・第6 歴史の中の社会政策・人事管理>
【10号館 1062 教室】

座長:竹内敬子(成蹊大学文学部)

1. 井上友一の欧米巡回 『列国ノ形勢ト民政』(1901年
の考察)
木下 順(國學院大学)
2. 能力主義下における職務給・能率給 三菱電機1968
年人事処遇制度改訂のもう一つの側面
鈴木 誠(労働政策研究・研修機構アシスタント・フェロー)

<自由論題・第7医療・社会福祉> 【10号館1063教室】

座長:佐々木貴雄(東京福祉大学社会福祉学部)

1. 医療の情報化政策と歯科医療提供体制 英国、ドイ
ツ、日本の動向
尾崎哲則(日本大学歯学部)
野村眞弓(ヘルスケアリサーチ株式会社)
2. ドイツの2008年介護保険改革
松本勝明(一橋大学経済研究所)
3. 発達障害者の就労実態と障害者雇用制度の課題
清水弥生(神戸女子大学健康福祉学部)

15:00~17:00 テーマ別分科会、自由論題

<テーマ別分科会・第7> 【10号館1011講堂】
最低生活保障のあり方:データから見えてくるもの

座長・コーディネーター:阿部 彩
(国立社会保障・人口問題研究所)

1. 生活保護受給者と低所得者の生活実態:消費パターン
とウェル・ビーイング
阿部 彩(国立社会保障・人口問題研究所)
2. 消費の社会的強制と最低生活水準
菊地英明(国立社会保障・人口問題研究所)
3. 高齢期における低所得リスクの規定要因
山田篤裕(慶應義塾大学)
4. 住居の状況による生活満足度の違い
上枝朱美(東京国際大学)
5. 貸付制度と生活保護
田宮遊子(神戸学院大学)
6. 低収入就業世帯の規定要因の分析
西村幸満(国立社会保障・人口問題研究所)

<テーマ別分科会・第8> 【10号館1041教室】

医療サービスにおける患者参加 実証的な研究動向を
中心に (保健医療福祉部)

座長:松田亮三(立命館大学産業社会学部)

コーディネーター:長澤紀美子
(高知女子大学社会福祉学部)

1. 「患者参加」は幻想か？ 英国と日本の調査から
石垣千秋(東京大学大学院総合文化研究科院生)
2. 患者満足度調査の広がり 医療の質の向上に向けた
今後の展開
野村眞弓(ヘルスケアリサーチ株式会社)

< テーマ別分科会・第9 > [10号館1042教室]

労働者供給事業の歩みと課題・展望()
〔産業労働部会〕

座長・コーディネーター:橋元秀一(國學院大学學経済学部)

1. 全港湾の労働者供給事業の歴史および現状と課題
伊藤彰信(全日本港湾労働組合)
2. スタッフフォーラムの労供派遣事業の現状と課題 創
設の理念から将来の展望まで
齊藤 壽(企業組合 スタッフフォーラム)

< テーマ別分科会・第10 > [10号館1061教室]

大学や高校における労働教育の現状と可能性
〔労働組合部会〕

座長・コーディネーター:高須裕彦
(一橋大学大学院社会学研究科フェアレイバー研究教育
センター)

1. 連合が推進する大学や高校における労働教育
山本幸司(日本労働組合総連合会)
2. 学校におけるワークルール教育
道幸哲也(北海道大学大学院法学研究科)

< テーマ別分科会・第11 > [10号館1063教室]

世紀転換期英米企業の組織・管理改革とその人的基盤
熟練工、職長、技術者のキャリアに注目して
〔労働史部会〕

座長:榎 一江(神戸大学大学院経営学研究科)
コーディネーター:小野塚知二
(東京大学大学院経済学研究科)

1. 企業内教育・訓練の展開と大企業の組織・管理改革

- 熟練工、フォアマン、エンジニア、マネージャー
関口定一(中央大学商学部)
2. イギリス造船機械産業における管理革新の担い手
職長・製図工・技師の機能と位置についての試論
小野塚知二(東京大学大学院経済学研究科)

< テーマ別分科会・第12 > [10号館1052教室]

スーパーマーケットと対人サービス業における同一価値労
働同一賃金制度の課題

座長:遠藤公嗣(明治大学経営学部)
コーディネーター:森ます美(昭和女子大学人間社会学部)

1. スーパーマーケットにおける職務の評価と賃金格差
正規・非正規従業員の意識と実態の乖離について
小倉祥子(椋山女学園大学人間関係学部)
2. 職務分析・職務評価からみるスーパーマーケットの職務
分担状況
禿あや美(跡見学園女子大学マネジメント学部)
3. 看護師の職務評価と専門性
山田和代(滋賀大学経済学部)

4. 介護職における感情労働の評価に関する分析
大槻奈巳(聖心女子大学)

< テーマ別分科会・第13 > [10号館1051教室]

戦前日本社会政策論を再発見する
〔学会史小委員会〕

座長:菅沼 隆(立教大学)
コーディネーター:玉井金五(大阪市立大学)

1. 戦前日本における「貧困」と「社会」
富江直子(東京大学)
2. 日本における< 経済学 > 系社会政策論と< 社会学 >
系社会政策論 戦前の軌跡
玉井金五(大阪市立大学)
杉田菜穂(大阪市立大学大学院院生)

5. 第119回大会テーマ別分科会企画・自由論題報告の公募

第119回大会は、来る10月31日(土)・11月1日(日)、
金城学院大学(名古屋市、大会実行委員長・山本郁郎会
員)を会場に開催されます。

第2日目に実施するテーマ別分科会の企画ならびに自由
論題分科会での報告を次の通り公募いたしますので、ふるっ
てご応募くださるようお願いいたします。

1. 応募の方法

学会ホームページ「第119回大会テーマ別分科会企
画・自由論題報告公募」から応募様式をダウンロードし、
必要事項を記載の上、電子メール添付または CD-Rom
郵送の方法でご応募ください。

2. 応募の締切り

来る6月22日(月)必着

3. 応募先

秋季大会企画委員長 小笠原浩一 宛
住所: 〒981-8522 仙台市青葉区国見1-8-1
東北福祉大学

メール・アドレス o-koichi@tfu-mail.tfu.ac.jp

メールの場合、必ず「119 大会応募」の件名をお願いし
ます。

4. 問い合わせ先

上記メール・アドレスまたは 022-301-1172 (小笠原研
究室 DI)

はじめに

第117回大会(2008年度秋季大会)は10月11～12日に岩手大学を会場に開催された。総参加者数はゲストスピーカー1名を含め234名(詳細は後述)で、地方小規模大学での大会としてはまずまずの状況と自画自賛している。以下、今後の参考になればと経緯を報告する。

岩手大学での開催を打診されたのは、2005年10月の第113回大会(北大大会)の折であったが、正式に決定されたのは、2006年6月の幹事会においてであった。その幹事会において、大会日程も決めてもらった。

この時期は各種の学会大会が集中することから、早期に日程を決めることによって、他学会との競合を回避するためであったが、結果的には、多くの会員が所属する他学会との競合を回避することはできず、同時期に複数の学会を行き来する会員が多かったようである。

1. 会場確保と実行委員会体制

2006年6月の幹事会における開催日程決定を受けて、実行委員会発足前に藤澤の独断で会場の確保予約を行った(6月)。

岩手大学は各種の資格試験会場に活用されているため、早期の確保が必要と考えた。同じく懇親会場の確保も早めに行った(2007年7月)。これも、時期が結婚式シーズンのためである。

2007年11月に実行委員会が発足した。実行委員は岩手大学の田口会員・佐藤会員・藤原会員・藤澤を中心とし、富士大学(花巻市)の寒川会員にも加わっていただいた。

第1回実行委員会において、藤澤を実行委員長に、受付・アルバイト担当を藤原に、会場担当を佐藤に、懇親会担当を田口にという大枠の分担を決め、準備を進めることとした。

実行委員会内での共通認識としては、岩手大学での開催は、財政的にはかなり厳しいだろうから経費節減に極力努めなくてはというものであった。その結果、掲示物のほとんどを内製(自製)することとしたが、後述するようにそのことが実行委員の過重負担となってしまった。

2. 大会プログラムの印刷・発送

大会プログラムの印刷・発送は、岩大生協に委託することとし、8月5日に企画委員会から最終的に受け取った原稿をもとに、8月8日に第1次のプログラム原稿を岩大生協に下ろした。その後、何回かの原稿追加・修正のやりとりをして、8月19日に最終稿となった。この時点では、8月中旬に発送終了との見通しであったが、結果的には9月9日の発送という大失態になってしまった。

このような失態を演じた最大の理由は、実行委員会の詰め甘さと、実際の印刷・発送が仙台の業者であったことと思われる。

岩大生協に委託するとき、仙台の業者で大丈夫かと念を押したが、東北大生協のノウハウと電子メールを活用するので大丈夫だということであった。しかし結果的には、やはり岩大生協と業者との間での連絡がうまくいっていなかったと思わ

れる。発送が遅れた理由は、仙台の印刷所から佐川急便に持ち込み、ゆうメールに廻してもらったところ、持ち込んだ郵便局に、封筒に日付(大会日程)の入ったものは受け取れないと拒否され、持ち帰り、受け取ってもらえる郵便局を探すのに手間取った、とのことであるが、にわかには信じがたい。そうした経緯があったので、発送の経費は、当初見積もりは12万円であったが、後の会計報告にあるようにほとんど発生していない。

教訓は、印刷・発送はやはり地元業者にすることを原則とすべきであろうことである。

なお、多分前例は無かったかと思われるが、プログラム発送に観光案内を同封した(発送費が変わらないことを前提に)。

3. 大会準備

先述したように、地方小都市の小規模大学での大会開催は、財政的にはかなり厳しいだろうとの予測のもと、経費節減を大前提に準備を進めた。特に、看板をはじめ、各種掲示物は、懇親会場のメイン垂れ幕を除いて実行委員が内製(自製)した。しかしこれが膨大な作業で、実行委員の過重負担となってしまった。

表面上の経費は発生しなかったが、それは、藤澤の大学内での特殊なポジションの故に、無料で(経費的に藤澤の負担無しに)印刷・コピーが出来たことと、それ以外は結局研究費の持ち出しであった。

近年のプリンターの性能向上(大型プリンターを含め)から、掲示物の内製は可能で、経費の大幅節減にはなるが、実行委員がすべて請け負うのは問題であった。せめて、学生アルバイトを使えるようにした方がよいだろう。

学会開催補助金を人文社会科学部と教育学部の後援会から、それぞれ5万円もらうことができ、財政的には非常に助かった。但し、プログラムに名前が載るのは、所属の違う実行委員長だけなので、急遽、「実行委員会委員委嘱状」を代表幹事名で出してもらった。

託児所の斡旋を準備したが、利用者はいなかった。

4. 会員の参加状況

プログラムの発送が大幅に遅れたことで、参加状況への影響が危惧されたが、幸いなことに大きな影響はなかった(と思われる)。詳細は以下の通りである。

総参加者 233名 + ゲスト1名(内非会員35名)

参加費納入者 243名(内非会員35名)

前納者 177名(内非会員9名)(内返還1名)

当日参加者 67名(内非会員26名)

小計 244名(前納欠席10名、返還1名)

5. 懇親会

会場は市内の「ホテル東日本」に設定した。その理由は、繁華街と盛岡駅に比較的近いことと、日本酒の持ち込みを黙認してくれることであった。

大会場からのバスでの移動がスムーズに行くか懸念されたが、幸いなことに会員の皆様の協力で、滞りなく行われた。

参加者は、当初 120 名前後を予測していたが、当日参加者が意外と多く、出版社の 4 名を含め、136 名(内前納者 109 名、欠席者 4 名)の参加をえることができた。

地元の酒造組合から、地酒の格安提供を受けることができ、財政的には助かった。

懇親会の乾杯の音頭は、相澤與一会員にお願いした。

6. 学生アルバイト

学生アルバイト代(含弁当代等)は、大会会計指針の 27.5 万円を上回る 30 万円弱であった。その最大の要因は、前日(金曜日)の説明会に全員を参加させる必要があったため、18 名を拘束したことによる。

大会会計指針は、前日設営に 6 人×5h しか計上していないが、大会当日のスムーズな進行を考えると、前日の説明会は重要だと思われる。

また、先にも述べたように、掲示物等を内製するとすれば、学生アルバイトを使えるようにした方がよい。

7. 会計

諸般の事情が重なって、最終的には大幅黒字となったが、あまり参考にならないであろう。異例かもしれないが、会計処理は、本会計と別会計に分け、本会計分の剰余は学会本部に返納し、別会計分の剰余は、実行委員会内で処理することとした。

おわりに

実行委員長の不手際で、多くの会員にご迷惑をおかけしたが、とにもかくにも、大会当日は大過なく終えることができた。実行委員会としては望外の喜びで、幹事会や秋季大会企画委員会を始め、会員諸氏のご協力に感謝したい。

(藤澤建二)

7. 第 117 回大会実行委員会会計報告

本 会 計

【収 入】

(単位：円)

費 用	予 算	決 算	差 額 (-)
大会開催費(学会本部)	1,000,000	1,000,000	0
合計	1,000,000	1,000,000	0

【支 出】

(単位：円)

費 用	予 算	決 算	差 額 (-)
プログラム・封筒等印刷経費	250,000	211,350	38,650
郵送・発送費	200,000	47,290	152,710
会場看板代・生花代	50,000	0	50,000
消耗品代	50,000	31,205	18,795
控室・共通論題飲料代	35,000	11,882	23,118
学生アルバイト謝金・弁当代等	275,000	296,580	21,580
会場使用料	140,000	162,710	22,710
学会本部へ返納	0	238,983	238,983
合計	1,000,000	1,000,000	0

別会計

【収入】

(単位：円)

費用	予算	決算	差額(-)
学部後援会補助	0	100,000	100,000
広告・出店収入	0	97,000	97,000
懇親会費	600,000	710,000	110,000
合計	600,000	907,000	307,000

【支出】

(単位：円)

費用	予算	決算	差額(-)
後援会経費	600,000	696,465	96,465
後援会酒代	0	20,210	20,210
垂れ幕代	0	5,250	5,250
タクシー代	0	1,680	1,680
合計	600,000	723,605	123,605

収支差			183,395
-----	--	--	---------

8. 社会政策関連学会協議会活動報告

社会政策学会が加入する社会政策関連学会協議会の主催で、学術シンポジウム「反貧困 最前線」が2009年3月30日に日本学術会議講堂で開催されました。

共催者は、日本学術会議社会学委員会・経済学委員会合同「包摂的社会政策に関する多角的検討」分科会でした。

開会あいさつは、古川孝順氏、司会は大沢真理氏と岩田正美氏であり、講演者は、杉村宏氏、豊福裕二氏、阿部彩氏でした。

参加者は約200名で、3講演の後、参加者による熱心な討論が行われました。

社会政策関連学会協議会のホームページは、国立情報学研究所(NII)のサイトにて、5月下旬には公開の予定です。

協議会に加入する学協会などの、これからの大会予定情報を表紙に掲載します。社会政策関連学会協議会ホームページの公開については、あらためてお知らせします。

(文責 遠藤公嗣 社会政策関連学会協議会副代表)

9. 2008年度専門部会・地方部会活動報告

専門部会報告

労働組合部会

労働組合部会は、2度の大会の際にテーマ別分科会を開催した。

第116回大会(2008年春季大会)では、「『グローバル化』時代における労働組合の国際活動」を取り上げ、分科会を開催した。

会員外から2名の報告者を依頼し、UNI(ユニオン・ネットワーク・インターナショナル)東京事務所の伊藤栄一氏には、「『グローバルユニオン』の可能性 UNIの組織と運動」と題して発表していただき、また自治労の井ノ口登氏には、「公

務公共部門における国際労働運動 国際公務労連(PSI)の活動を中心に」を報告していただいた。新しいテーマとして会員に注目され、参加者はおよそ80名と多数に上った。

第117回大会(2008年秋季大会)においては、テーマ別分科会として、「労働組合運動の再活性化戦略とその展望 韓国とオーストラリア」を開催した。

このテーマをめぐっては、これまでヨーロッパ諸国と北アメリカが注目されてきたが、今回は韓国とオーストラリアに焦点をあわせた研究報告を企画した。

まず、金元重会員(千葉商科大学)が「韓国における産業別組合運動 金属労組と保険医療労組を中心として」を報告し、またチャールズ・ウェザーズ会員(大阪市立大学)が

「オーストラリア組合運動の復活への道 “Organizing Model”と2007年総選挙」を報告した。

参加者はおよそ30名であった。

(専修大学 浅見和彦)

産業労働部会

産業労働部会の2008年度の主たる活動は、学会報告1回、学会報告に向けての事前研究会開催1回であった。

学会報告は2008年度春季大会(116回大会)2日目において、「グローバル化のなかの自動車産業の経営革新と労使関係」と題する部会をもうけ、橋元座長、富田コーディネーターのもと、綿密な調査に基づく富田義典氏、石田光男氏の報告で行われた(参加者多数、なおそのための事前研究会は2007年度末に行った)。

さらに2009年3月30日には、2009年度春季大会の部会企画「労働者供給事業の歩みと展望」の事前研究会を報告者・部会世話役等の出席の下公開研究会の形式で行った(参加者20名程度)。

その他、今後の部会運営、部会企画について随時打ち合わせを行った。

(青山学院大学 白井邦彦)

総合福祉部会

日時：2008年7月19日(土)13:30~17:00

場所：京都府立大学 附属図書館 視聴覚室

出席者：15名(資料請求1名)

テーマ：“普遍主義の福祉”を考える

- (1)「北欧ノルウェーの普遍主義の福祉と“人生の質”」
上掛利博(京都府立大学)
- (2)「家族(児童)手当と普遍主義 フランスを中心として」
深澤 敦(立命館大学)
- (3)「最低生活保障と普遍主義」布川日佐史(静岡大学)

本年度の総合福祉部会は、わが国の格差社会の深まりのなかで「“普遍主義の福祉”を考える」という共通テーマを掲げ

北欧ノルウェーでは、教育・医療・介護・失業・年金などのリスクは社会的に担ったほうが合理的ということから、普遍主義の福祉政策を実施することで、誰もが安心して暮らせる「福祉社会の実現」と「経済の発展」を同時に可能にした。

フランスでは1978年から非就業者も含むすべての家族に対し家族手当を支給していたが、1998~99年に家族手当の普遍主義・選別主義に関する論争を経て所得制限案を撤回させ、政労使でユニバーサルな「社会手当」を形成した結果、少子化対策に成功した。

日本の生活保護制度においては、対象者をすべて受け入れたから普遍主義とは言えず、基準が低ければ貧困を固定化することになるという立場から「中間層の安定策」が必要であり、労働を基本にした従前生活保障のための職域社会保険制度の拡充が必要だ。

という報告がなされた。

競争社会が前提の「セーフティネットの福祉」に留まらないで、みんなが「自由に生きるための福祉」の実現方法に関して、懇親会の場も含めて活発な議論を行なった。

(京都府立大学 上掛利博)

非定型労働部会

1.学会全国大会への参加

2008年度春の第116回大会(於:國學院大學渋谷キャンパス)において、テーマ別分科会「今日の非正規雇用問題の諸相」で参加したが、報告が以下の5本と多かったので、(その1)(その2)に分けて行われた。

(その1)では、座長:笹島芳雄(明治学院大学)、コーディネーター:伍賀一道(金沢大学)で、以下の3つの報告が行われた。

- (1)「被差別部落と不安定就労 大阪府下の事例研究をもとに」
大西祥恵(桃山学院大学)
- (2)「非正規介護職の就業意識」
永井隆雄(九州大学大学院院生)
- (3)「雇用管理の変化と女性の活用 小売企業におけるワークライフバランスの試み」
清山玲(茨城大学)

(その2)では、

- (1)「資本系派遣会社の事業展開:派遣先親会社とその労働組合の対応を中心に」
水野有香(大阪市立大学大学院経済学研究科院生)
 - (2)「自動車産業における偽装請負拡大の経済的基盤 自動車部品メーカー光洋シーリングテクノ社の事例をもとに」
伊藤大一(立命館大学)
- の2本である。

2.部会例会の実施

2009年3月28日(土)午後1時半~5時、明治学院大学本館8階経済学部共同研究室において、以下の3本の報告がなされた。

- (1)「阪急電鉄における非正規化と統合化」
永井隆雄(九州大学大学院)
- (2)「電機産業における臨時工からパートへの転換 労使協調型組合形成による影響」
中山嘉(金沢大学大学院)
- (3)「戦後日本の社会政策学会における格差・貧困問題研究の推移」
高野剛(広島国際大学)

永井氏と中山氏は2009年度春季大会の自由論題「非正規雇用」において報告予定。参加者は11名と例年より若干少なかった。

(愛媛大学 長井偉訓)

保健医療福祉部会

2008年度の保健医療福祉部会の活動としては、社会政策学会第116回大会(春季)において、保健医療福祉部会による分科会を開催した。

テーマは「社会保障と医療および介護政策」であり、以下の形で執り行った(敬称略)。

座長:小山秀夫(静岡県立大学)、発表者:京極高宣(国立社会保障・人口問題研究所)「社会保障と高齢者介護政策」、西村周三(京都大学大学院経済学研究科)「社会保障と医療政策」。

なお当日の参加者は部会関係者を含め約75人であった。2004年12月11日には、保健医療福祉部会と日本大学法学

部稲葉研究室の共催により、シンポジウム「ソーシャル・キャピタルの潜在力を探る」を東京(学術総合センター)にて開催した。概要は以下の通りである(敬称略)。

< 部会代表挨拶 > 三重野卓(山梨大学)

< 発表 >

平井寛(日本福祉大学)「ソーシャル・キャピタルに着目した介護予防の試み 武豊プロジェクト」

矢野聡(日本大学)「自治体病院アンケート調査について」
濱野強(島根大学)「ソーシャル・キャピタルと健康に関するエビデンス」

藤原佳典(東京都老人総合研究所)「社会的孤立をどう防ぐか」

< 討論: ソーシャル・キャピタルと健康 >

司会・稲葉陽二(日本大学)

討論者・藤原佳典・矢野聡・濱野強・平井寛

なお当日の参加者は含め約 60 名であった。

(静岡県立大学 藤澤由和)

地方部会報告

北海道部会

2008 年度の北海道部会・研究会は以下の通り実施された。

日 時 : 2008 年 3 月 28 日(土) 14:00 ~

場 所 : 北海学園大学(7 号館 1 階 D101 番教室)

出席者 : 約 15 名

報告者とテーマ

1. 金鎔基(小樽商科大学)

「米国自動車産業における職長制度の変遷と生産性管理」

2. 渡辺まどか(北海学園大学法学研究科博士課程)

「ストックホルム市高齢者査察官報告書の紹介 スウェーデン高齢者福祉における質の確保について」

(札幌学院大学 片山一義)

関西部会

第 71 回関西部会を下記の通り開催した。

日 時 : 12 月 6 日(土)13 時から 16 時半

場 所 : 関西大学 100 周年記念会館第 1 会議室

参加者 : 27 名

研究報告 特集 : 現代日本の最低生活保障

1. 現代日本における最低生活保障 母子世帯からのアプローチ (神戸学院大学 田辺遊子)

2. 最低賃金制の現代的意義 (福井県立大学 吉村臨兵)

3. 最低生活とは何か (同志社大学 中川 清)

特集テーマがタイムリーなもので、かつ報告がそれぞれ内容的に深みがあったため、出席も例年になく多く、かつ総括討論でのフロアへの活発な質疑と応答で時間を延長しての部会となった。龍谷大学大前会員の座長のリードが良かったのかもしれない。

田辺会員の詳細な法制史的統計的な母子家庭への給付水準の引き下げのかかえる問題の指摘、吉村会員の最低賃

金をめぐる諸説の整理と最低賃金法以外の産業別協定や企業別協定による最低賃金の紹介、産業別賃金協定への繰り込みの可能性の議論、中川会員の母子家庭の社会性の喪失と他の貧困形態が維持できている社会性の対峙とそこからでてくる現代貧困論の再考への呼びかけ、等いずれも問題提起は新鮮で深く考えさせられるものであった。

(関西大学 大塚忠)

中四国部会

2008 年 9 月 20 日(土)午後 1 時 ~ 3 時まで、しまなみ交流館 2 階第 1 会議室において、以下の 2 本の報告が行われた。

(1) 久保友美恵(立命館大学大学院)・丹下晴喜(愛媛大学)

「Made in Japan by Chinese 外国人研修生・実習生制度の現状と研修生・実習生の労働実態 愛媛県の事例を中心に」

(2) 中川香代(高知大学)「英国における労働のフレキシビリティ推進に関する考察 英国のワーク・ライフ・バランス政策より」

参加者は 6 名と少なかったが、両報告に関して活発な質疑がなされた。

研究会終了後、尾道のハーバーに面した居酒屋で談笑しながら親睦を深めた。

(愛媛大学 長井偉訓)

九州部会報告

2008 年度は例年通り 2 回研究会を開催した。

【第 87 回研究会】

日 時 : 2008 年 9 月 6 日(土)13 時 30 分 ~ 17 時 30 分

場 所 : 九州国際大学

報 告 : 1. 「福祉の複合体」史の語るもの

< 包摂・排除 > と < 安定・拘束 >

高田 実 (九州国際大学)

2. 電電公社・NTT における人員問題の展開

平木真朗 (西南学院大学)

研究会参加者 8 名

【第 88 回研究会】

日 時 : 2009 年 2 月 21 日(土)13 時 30 分 ~ 17 時 30 分

場 所 : 大分大学経済学部

報 告 : 1. 現代企業における派遣労働者利用に関する研究

黄 義銓(大分大学大学院経済学研究科院生)

2. 組合の統合問題試論

平地一郎 (佐賀大学)

研究会参加者 12 名

(佐賀大学 平地一郎)

事務局より

部会活動費の補助にあたっては、各年度の活動状況と参加者の概数報告を行っていることを要件としています。

活動実績があり、まだ報告されていない部会責任者の方は、至急事務局までご報告ください。

10. 幹事会議事録

第4回幹事会

- (1) 名称：社会政策学会 2008-2010 年第 4 回幹事会
(2) 日時：2008 年 10 月 10 日(金) 14:00～16:30
(3) 場所：岩手大学学生センター棟 2 階会議室
(4) 出席：阿部、石井、遠藤、小笠原、小越、佐口、菅沼、玉井、久本、藤澤、矢野(出席 11 名)
欠席：埋橋、都留、平岡、室住、山本、岩田、鈴木、田中、沈、布川、宮本、森、吉村
- (5) 議題
1. 新入会員の承認
4 名の新入会員(ニューズレターNo.3 に掲載済)を承認した。
 2. 国際交流旅費の申請手続きについて
阿部代表幹事より、前回幹事会の議論をふまえて、国際交流旅費に関する申し合わせ案が提案され、了承された。
 3. 学会の諸規定の整備について
阿部代表幹事より、会則と諸規定の整備を行うことが提案され、了承された。検討にあたっては、プロジェクトチームを組織し、幹事会に原案を提案してもらうこととした。
メンバーはチーフを遠藤幹事とし、本部より石井幹事が、あと1名は後日決定することとした(後日メールによる持ち回り審議により森幹事に決定)。
 4. 編集委員会報告
委員長、副委員長不在のため、次回報告することとした。
 5. 秋季大会企画委員会報告
小笠原幹事より、今回の秋季大会について報告が行われた。まず、事前申込み者は 176 名になったことが述べられた。ジャーナル 1 号は刊行が遅れたため、今回の大会で出席者に配布することが提案され、了承された。なお、会費滞納者には配布しないこともあわせて確認した。
次回 2009 年の秋季大会については企画委員会で大枠が決まったので、1 月幹事会で報告する予定こととした。
 6. 春季大会企画委員会報告
佐口幹事より、大会プログラム作成にあたり、報告者の肩書きの記載方法について、意見を求められた。
その結果、肩書きは院生か否かの区別がつくようにし、肩書きが複数ある場合や院生と兼ねている場合は表記を選んでもらうこととした。
この他に、同幹事より、春季大会報告の締め切り日程と共通論題の打合せの日程が報告された。
また、企画委員会が主催する分科会も考慮に値するとの意見が出されていることも紹介された。
 7. 2008 年度(第 117 回)秋季大会実行委員会報告
藤澤幹事より、117 回大会の参加者は 190 名くらいで、懇親会はやや少ないが、109 名の申し込みがあることが報告された。なお、大会参加費の領収書は懇親会とは分けて作った方が良いとの意見があった。
 8. 2009 年度(第 118 回)春季大会実行委員会報告
矢野幹事より、118 回大会の準備状況が報告された。まず、同大会において大学院や付置研究所を紹介するブースを作ることが提案され、了承された。
また、法学部・経済学部には補助をお願いしていること、次回の委員会開催は 1 月下旬を予定していることが報告された。なお、懇親会や共通論題のスナップ写真を撮影し、会場内

にて掲示する企画も報告された。

9. 広報委員会報告

菅沼幹事より、ニューズレターの発刊予定、原稿締め切りについて報告があった。これに対し、両大会企画委員長より、応募者や論題を募る関係上、例年よりも早めの 11 月末には発刊して欲しいとの要望が出された。

次に、ホームページ管理方法について、前任者の二村氏より了解をもらい、半年程度で移行が可能との見通しが述べられた。

最後に、広報委員の任期と選出方法についての意見交換を行った。ノウハウ継承の観点から半数ごとの交替が望ましく、また、固定化するのは良くないので任期は 2 期までとの意見が出た。

10. 会員業績リストに関する会員からの投稿について

阿部代表幹事より、会員からのニューズレターへの投稿の扱いについて報告が行われた。

審議の結果、長文の為、阿部代表幹事の責任で短縮したものをニューズレターに掲載することとした。

また、同会員から業績リストに代わるデータベースの構築についての検討依頼があったことが紹介され、意見交換を行った。

11. 学会賞選考委員会

阿部代表幹事より、新規の遠藤公嗣氏、田中拓道氏、留任の菅沼隆氏、重任の久本憲夫氏(1 年任期)について了承が求められ、承認を行った。

なお、まだ確定していない委員について、大会期間中に決定することとした。

12. その他

阿部代表幹事より、第 118 回大会にて大会実行委員会からの要請として、助成金を大学に申請する際に必要な会員リスト提供の可否を議論した。

検討の結果、名前および所属についてのみ記載したリストの提供を行うこととした。

なお、次回幹事会は 1 月 30 日(金)で調整を行うことが了承された。

第5回幹事会

- (1) 名称：社会政策学会 2008-2010 年第 5 回幹事会
(2) 日時：2008 年 10 月 12 日(日) 12:00～13:20
(3) 場所：岩手大学学生センター棟 2 階会議室
(4) 出席：阿部、石井、遠藤、小越、佐口、菅沼、玉井、久本、矢野、平岡、室住(出席 11 名)
欠席：岩田、埋橋、小笠原、鈴木、田中、沈、都留、布川、藤澤、宮本、森、山本、吉村
- (5) 議題

1. 学会賞選考委員

阿部代表幹事より、決まっていなかった残り 1 名の委員として竹内敬子氏をお願いすることが報告され、了承された。

2. 編集委員会報告

平岡幹事より、ジャーナルに編集作業について以下の報告があった。

ジャーナル第 1 号の発行について、9 月末刊行予定だったが、入稿の遅れの為、10 月になったこと、巻号表記は年度で

区切り、5月、9月、1月を1巻として考えるが、第1巻のみは2号となること、査読手続きは標準化しつつあり、次号の2号には査読指針を掲載すること、今秋季大会の共通論題について、企画委員長から執筆依頼をお願いすることが報告された。なお、秋季大会の共通論題については、内容は企画委員会で、執筆要領とのチェックは編集委員会で行うことになった。これは入稿後の修正について出版社からクレームが来ていることへの対応でもある。

報告後、矢野幹事より、査読委員の氏名の公開の有無について質問がなされた。平岡幹事は現在のところ検討していないのが、委員会で議論し、次回幹事会で諮りたいと回答した。

第2号は投稿論文が少ないため、国際学会動向についての掲載が考えられると提案された。投稿が少ない主な理由としては査読が滞っていることがある。

なお、第2号の発刊時期は年内であるが、投稿論文の査読状況によっては掲載本数が増える可能性があるため、来年1月に発刊することとした。

会費未納者に学会誌は送付されないが、会費が納入されれば、次号とまとめて発送すること、海外発送費用は出版社をお願いすることを確認した。

なお、小越幹事より、雑誌扱いで図書館に配架されると消耗品扱いとなり保管されない場合があるので、ニューズレター等で呼びかけることが必要と指摘された。

3. その他

矢野幹事より、今大会の自由論題のなかに学会報告の水準に至っていないものがあり、審査を厳しくすべきではとの意見がだされた。現在、アブストラクトを増やして対応しているが、この件については次回幹事会で議論を行うこととした。

第6回幹事会

- (1) 名称 : 社会政策学会 2008-2010 年第 6 回幹事会
(2) 日時 : 2009 年 1 月 30 日 (金) 13:30 ~ 18:30
(3) 場所 : 東京大学経済学研究科棟 12 階第 2 共同研究室
(4) 出席 : 阿部、石井、埋橋、小笠原、小越、佐口、菅沼、鈴木、沈、平岡、藤澤、矢野、吉村
(出席 13 名)

欠席 : 岩田、遠藤、田中、玉井、都留、久本、布川、宮本、室住、森、山本

(5) 議題

1. 会員の入会・退会

13 名の新入会員を承認した。あわせて 1 件の在外外国人会員の会費減額について了承した。

2. 第 117 回大会の総括

藤澤幹事より、第 117 回大会の総括が報告された。

学会参加者は 233 名、懇親会は 136 名であり、収支は黒字となった。ただし、これは郵送費が業者の手違いにより遅延したため、業者側からの費用請求がなかったことが大きく、その分を除けば、10 万円程度の黒字であった。

また、懇親会も 2 学部の後援会からの補助や、地元地酒の宣伝による寄付をもらったことにより、収支は黒字となった。

黒字部分は別会計である懇親会分を除き、学会に返金することとした。今回は赤字を過剰に意識過ぎ、看板を内製にするなどのコストダウンを徹底したため作業が大変であったので、費用をかけて外注するなどし、業務を軽減する必要があったとの感想が述べられた。

なお、プログラム発送が大幅に遅れたことについては、業者との間で確認が上手できていなかったためであり、業者との確認には注意を払うように次回以降の大会実行委員会に引き継ぐことが確認された。

最後に、大会参加費前納分の返還請求があり、対応に苦慮したことが報告された。原則は返還しないことをプログラムに明記することで対応することとし、次回からその旨掲載することとした。

3. 春季大会企画委員会報告

佐口幹事より、第 2 回の共通論題打合せ (2008 年 12 月 23 日) の報告があり、議論の結果、座長を追加することが決まったこと、4 月に第 3 回目の打合せを行う予定となっていることもあわせて述べられた。

テーマ別分科会では、非会員の報告が多い分科会については、学会員では対応できない分野であり、会員が主導し、学会としても必要であると判断されれば、これを認めることに了承した。ただし、報告者全てが非会員である場合については今後の検討課題とした。

また、関連して、阿部代表幹事より、部会では非会員の講師に謝礼を支払うことがあるが、共通論題で報告する非会員については、現行規程では謝礼は支払えないので、この点も検討課題としたいと述べられた。

引き続き、自由論題について佐口幹事から報告一覧が提示され、企画委員会案を了承した。

4. 秋季大会企画委員会報告

小笠原幹事より、幹事会で承認をされた第 119 回大会共通論題における報告者の公募が 1 月 17 日締め切りで行われ、その結果が報告された。これをうけて 1 月 24 日の企画委員会で決定した案が示された。

委員会案における非会員の報告の位置づけやフルペーパー提出、学会誌への寄稿について議論を行った。

その結果、報告者が厚労省の政策担当者であるということとを考慮し、特別報告として位置づけ、フルペーパーやジャーナルへの投稿は依頼しないことが確認された。

また、書評分科会の存廃について議論した。従来から必置とは考えていないことを確認したが、今回は秋季大会企画委員会から提案を尊重し開くことを了承した。

今後については検討していくことが確認された。

5. 編集委員会報告

平岡幹事より、まず新ジャーナル第 1 号の発行および配布状況、ならびに第 2 号の進捗状況が報告された。

第 2 号は投稿審査の関係で、年度末まで遅れることが報告され了承された。その後、論文の投稿・審査状況と今後の見通し、執筆要領の改定、掲載論文確保の取り組み、編集委員の増員、編集委員会事務局の負担軽減について議論した。

このうち、掲載論文確保策として、地方部会や専門部会の小特集や政策動向紹介といった企画が出され、検討した。編集委員の増員については、次回の総会で規定を改正し現行の 7 名以内から 12 名以内へすることを確認した。

これに関連して、編集委員会の負担軽減として、編集作業の一部を外部化できないかとの提案があった。この件については、現在の出版社との契約内容と予算をみながら幹事会で検討することとした。

6. 国際交流委員会報告

沈幹事より、国際交流委員会の共催企画である 12 月 10 ~ 11 日の国際ワークショップおよび主催企画である 1 月 15 日開催の国際セミナーの実施報告が行われた。

7. 広報委員会報告

菅沼幹事より、ホームページの更新体制が二村氏の指導により整い、昨年並みの更新が可能になったことが報告された。

次に、学会研究会広報用ブログの試験的運用について、問題がないので本格的に運用することが示された。

委員会からの要望として、旅費規程に広報委員会も旅費の支払い対象に含めることが提案され、検討し、次回総会で規約改正を提案することとした。

なお、ニュースレターについて、3号を発行し、次回4号は4月下旬から5月上旬発行予定であることも報告された。

8. 第118回大会実行委員会報告

矢野幹事より、第118回大会の準備状況が報告された。

9. 今後の大会開催校について

阿部代表幹事より、今後の大会開催校について次の通り提案があり、了承された。

2010年春季(第120回)大会 早稲田大学

2010年秋季(第121回)大会 愛媛大学

2011年春季(第122回)大会 明治学院大学

2011年秋季(第123回)大会 京都大学

10. 国際交流旅費の申請について

阿部代表幹事より、ジェンダー部会から来年度の国際交流旅費の申請があったことが報告された。

検討した結果、申請通り支給することになった。

11. 経済学会連合への補助金申請について

阿部代表幹事より、経済学会連合会への補助金申請について、現時点で会員から申請がないことが報告された。

12. その他

阿部代表幹事より、学会本部に匿名の投書があったことが報告され、代表幹事が取り扱いを決めることを了承した。

11. 承認された新入会員

氏名	所属名称	専門分野
1月30日承認分 13名		
橋場 俊展	三重大学人文学部	労使関係・労働経済
澤田 有希子	大阪人間科学大学人間科学部	社会保障・社会福祉
加藤 まどか	福井県立大学学術教養センター	ジェンダー・女性
福田 順	京都大学大学院経済学研究科 院生	労使関係・労働経済
呉 明璽	上海社会学院経済法律社会諮問中心企業戦略研究室	その他
向井 洋子	筑波大学院人文社会科学部 院生	社会保障・社会福祉
山田 健司	京都女子大学家政学部	社会保障・社会福祉
江口 俊介	大阪市立大学生活科学研究科 院生	社会保障・社会福祉
濱田 英次	大阪市立大学大学院創造都市研究科 院生	労使関係・労働経済
浅井 亜希	立教大学大学院法学研究科 院生	社会保障・社会福祉
橋本 由紀	東京大学大学院経済学研究科 院生	労使関係・労働経済
善積 京子	追手門学院大学社会学部	生活・家族
須藤 卓也	前橋市役所保健福祉部社会福祉課	社会保障・社会福祉
4月11日承認分 9名		
堅田 香織里	埼玉県立大学保健医療福祉学部社会福祉学科	社会保障・社会福祉
宮地 克典	大阪市立大学大学院経済学研究科 院生	労使関係・労働経済
金谷 信子	広島市立大学国際学部	社会保障・社会福祉
岩崎 正洋	日本大学法学部	その他
藤井 正男	帝塚山大学経済学部	労使関係・労働経済
渡辺 まどか	北海学園大学大学院法学研究科 院生	社会保障・社会福祉
横川 正平	岐阜県社会福祉協議会	社会保障・社会福祉
板橋 史宣	東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科 院生	社会保障・社会福祉
伊藤 健宏	石巻専修大学経営学部	社会保障・社会福祉